

第5次東海市ごみ処理基本計画アンケート調査について

1 第5次東海市ごみ処理基本計画アンケート調査の概要

報告書P.1「調査の概要」のとおり。

2 前回アンケート調査（第4次東海市ごみ処理基本計画後期計画アンケート調査）の概要

調査対象者	令和2年（2020年）12月1日時点において無作為に抽出した18歳以上の市民3,000人
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	令和3年（2021年）1月12日から同月31日まで
発送数	3,000票
有効回収数	1,648票
有効回収率	54.9%

3 主なアンケート調査結果

(1) 問6～問11：家庭のごみ出しの状況に関する設問

ア 問8：不燃ごみを集積場所に出す頻度（報告書P.19）

前回と同様、「2・3か月に1回程度」が最も割合が高い。前回に比べ、「2・3か月に1回程度」の割合が減少し、「年1～3回程度」の割合が増加した。居住地別に見ると、中部では、「ほとんど出さない」の割合が他の地域と比べてやや高い。問12：ごみと資源の出し方における「小型家電」・「びん類」の分別別の「小型家電」・「びん類」の集積場所に出す頻度の差については、びん類の方が大きい。

イ 問9：プラスチックを集積場所に出す頻度（報告書P.22）

前回と同様、「週1回（ほぼ毎回）」が最も割合が高い。前回に比べ、30歳未満・70歳以上の「週1回（ほぼ毎回）」の割合が増加した。居住地別による有意な差は見られない。

ウ 問10：ペットボトルを集積場所に出す頻度（報告書P.24）

前回と同様、「ごみ集積場所以外の場所に出している」が最も割合が高い。居住地別による有意な差は見られない。

エ 問11：缶類を集積場所に出す頻度（報告書P.27）

「ごみ集積場所以外の場所に出している」が最も割合が高い。居住地別による有意な差は見られない。

(2) 問12～問19：家庭のごみと資源の分別に関する設問

ア 12：ごみと資源の出し方（報告書P.29）

「天ぷら廃油」、「木材」、「羽毛布団」については、いずれも「ごみとして出している」が「資源として出している」と回答した割合を上回っている。「紙箱・包装紙」、「紙パック」、「古着・古布」については、前回に比べ、「ごみとして出している」の割合が減少したものの、依然として「資源として出している」の割合が低い。

イ 問13：資源として回収してほしいと思う品目（報告書P.34）

「段ボール」が最も割合が高く、次いで「びん類」、「小型家電」と続く。世帯人員別に見ると、1人世帯における「小型家電」の割合が高い。

ウ 問14：主にごみと資源の分別を行っている人（報告書P.36）

性別に見ると、問6：主にごみ出しを行っている人においては、有意な差は見られなかったが、主にごみと資源の分別を行っている人においては、「受け取ったご本人」と回答した割合について、女性が男性を大きく上回っている。

エ 問15：ごみと資源の分別で感じていること（報告書P.39）

前回と同様、「洗うなど手間がかかり、面倒であると感じる」が最も割合が高く、次いで「分別をしたところで、収集日まで家の中に置いておく場所がない」、「資源分別収集常設場・拠点場の場所が遠い」と続く。前回に比べ、特に「資源分別収集常設場・拠点場の場所が遠い」、「ごみと資源の出し方がわかりにくい」、「特になし」の割合が増加した。

オ 問16：資源分別収集常設場（リサイクルセンター内）の利用頻度（報告書P.42）

居住地別に見ると、北部における『利用しない』の割合が他の地域に比べてやや低い。「ほとんど利用しない」・「これまで利用したことがない」と回答した人の問15：ごみと資源の分別で感じていることにおける「洗うなど手間がかかり、面倒であると感じる」・「分別をしたところで、収集日まで家の中に置いておく場所がない」の割合については、全体の割合に比べて高い。

カ 問17：資源分別収集拠点場の利用頻度（報告書P.45）

「ほとんど利用しない」・「これまで利用したことがない」と回答した人の問 15：ごみと資源の分別で感じていることにおける「洗うなど手間がかかり、面倒であると感じる」・「分別をしたところで、収集日まで家の中に置いておく場所がない」の割合については、全体の割合に比べて高い。

キ 問18：地域で行われている資源集団回収の利用頻度（報告書 P. 48）

前回に比べ、『利用しない』の割合が減少した。年齢別に見ると、30歳未満・30歳代における「これまで利用したことがない（利用したいと思わない、利用する必要がない）」の割合が他の年代に比べて高い。居住地別に見ると、中部における「月1回程度」の割合が他の地域に比べて高い一方、『利用しない』の割合も他の地域に比べて高い。

ク 問19：民間の資源回収ステーションの利用頻度（報告書 P. 52）

前回に比べ、『利用しない』の割合が減少した。居住地別に見ると、南部における『月1回以上利用する』の割合が他の地域に比べて高い。「月2・3回程度」・「月1回程度」と回答した人の問15：ごみと資源の分別で感じていることにおける「資源分別収集常設場・拠点場の場所が遠い」の割合については、全体の割合に比べて高い。

(3) 問20～問25：ごみの減量・資源化に関する設問

ア 問20：リユースの状況（報告書 P. 55）

品目別の「1～7は利用したことがないが、今後利用したい」の割合については、「家具」が最も割合が高く、次いで「家電（おもちゃを除く。）」、「書籍」と続く。問12：ごみと資源の出し方における「本・カタログ・冊子」の分別別の「書籍」のリユースの状況を見ると、「ごみとして出している」と回答した人の「1～7は利用したことがないが、今後利用したい」の割合については、全体の割合に比べて高い。問12：ごみと資源の出し方における「小型家電」の分別別の「家電」のリユースの状況を見ると、「資源として出している」と回答した人の「1～7は利用したことがないが、今後利用したい」の割合については、全体の割合に比べて高い。

イ 問21：食品ロスの発生頻度（報告書 P. 61）

前回と同様、「食べ残しの状況」・「過剰除去」における「まったく発生しない」の割合については、「直接廃棄の状況」における「まったく発生しない」の割合

に比べて高い。いずれにおいても、「月に1回程度」が最も割合が高い。

ウ 問23：食品ロスを減らすための取組状況と今後の取組意向（報告書 P.70）

選択肢別に見ると、「好みでない、食べない食品はフードドライブに役立てる」における「取り組んでいないが、今後取り組んでいきたい」が最も割合が高く、次いで「ローリングストックを実践し、備蓄非常食も無駄にしない」と続く。

エ 問24：ごみの減量・資源化を推進するための取組状況と今後の取組意向（報告書 P.75）

選択肢別に見ると、「会食時に3010運動を実践している」における「取り組んでいないが、今後取り組んでいきたい」が最も割合が高く、次いで「レンタル・シェア・リース製品を使用するようにしている」、「「てまえどり」の行動を意識している」と続く。

オ 問25：充実してほしい情報発信の手段（報告書 P.80）

「ごみ収集カレンダー（全戸配布されているもの）やごみと資源の出し方その他ガイドブック」が最も割合が高く、次いで「市の広報紙「広報とうかい」、
「市のホームページ」と続く。年齢別に見ると、本計画で新たに追加した「市公式LINE」については、いずれの年代においても割合が低い。